

ホワイトカラー・エクゼンプションは労働時間を増やすか？

2008年4月

くろださちこ やまもと いさむ
黒田祥子[†]・山本 勲[‡]

要 旨

近年、一定の要件を満たすホワイトカラーの労働時間規制を緩和する「ホワイトカラー・エクゼンプション制度」の是非が議論されており、労働時間規制の適用除外によって総労働時間がどのように変化するかが論点となっている。そこで、本稿では、管理職や年俸制適用の労働者など、すでに労働時間規制の適用除外となっている労働者（ホワイトカラー・エクゼンプションが適用されている労働者）をトリートメント・グループ、それ以外の労働者をコントロール・グループとし、両グループで労働時間が大きく異なるかどうかを検証した。具体的には、『慶應義塾家計パネル調査（KHPS）』の個票データを利用して、ホワイトカラー・エクゼンプションの適用の ATE（Average Treatment Effect）をマッチング推計し、ホワイトカラー・エクゼンプションの適用が労働時間へ与える影響を推計した。分析の結果、総じてみれば、ホワイトカラー・エクゼンプションの適用によって労働時間が顕著に長くなるとの証左は見出せないこと、ただし、より詳細に労働者の属性別に分析すると、ホワイトカラー・エクゼンプションが労働時間に与える影響は、どの労働者に対しても等しいものではなく、属性によって異なることもわかった。

[†] 一橋大学 (E-mail: kuroda@ier.hit-u.ac.jp)

[‡] 慶應義塾大学 (E-mail: yamamoto@fbc.keio.ac.jp)

本稿の分析に用いたデータは、慶應義塾大学経商連携 21 世紀 COE プログラムが実施した『慶應義塾家計パネル調査（KHPS）』の個票データである。なお、本稿のありうべき誤りは、すべて筆者たち個人に属する。